



みはら玉手箱



平成26年4月27日（日）「平成26年度市民学芸員実践講座」が開講式がありました。今年度は、実践講座の3年目となり、養成講座Ⅳも同時開講しました。

講演会

開講式に続いて、広島大学総合博物館 助教 清水則雄先生による講演がありました。

演題「大学博物館の学芸員について」

～小さくてもキラリと光る博物館を目指して～

「博物館自体は小さいが、東京ドーム約50個分の広大なキャンパスは、多数の遺跡と豊かな自然に恵まれているので全域を博物館として活用している。2011年の朝日新聞出版のランキングでは、大学博物館258館中15位、国立大学では8位である」とのことでした。



〔本郷生涯学習センターにおける開講式〕

各グループの活動開始

実践講座



〔情報発信グループ〕



三原市教育委員会文化課のホームページの「みはら玉手箱」を8号から継続発行します。



〔収集グループ〕



山陽本線開通記念事業への協力をはじめ、古写真冊子の継続発行や宮本常一写真展示Ⅱの開催等を計画しています。



〔体験グループ〕



10月に予定されている「城下町ウォーク」等25年度と同様の活動を行う予定です。

【質問受付】この「みはら玉手箱」への質問等は三原市教育委員会文化課 bunka@city.mihara.hiroshima.jp宛にお寄せください

養成講座



養成講座受講生全員で顔合わせしました。



3つの班に分かれて班長他の役割を決定しました。

広報みはらの最終ページを飾る「親子で学ぶみはら玉手箱」欄は、25年度から実践講座の各グループが順番に担当しました。

26年度は実践講座と養成講座が分担して担当します。



みはら おもしろクイズ



(解答はこの頁にあります)

三原の生んだ童謡詩人 武内俊子さん

三原の三大祭りの一つである「さつき祭り」が、去る5月24日～25日に盛大に催されました。5月の爽やかな気候のもと、ポポロ前の広い公園で、花を愛で、家族で遊び、音楽会ややさ太鼓で楽しんだ後は、食い道楽と呼ばれる屋台がズラリと並んで待っているのです。一日中楽しめる祭りですが、芝生の公園の入り口や通路にある**武内俊子さん**を讃えた石碑や像の存在に気付かない人が多いのではないのでしょうか。

そこで郷土の誇り、武内俊子さんを紹介します。



〔ポポロ駐車場に咲く見事なさつき〕



〔ポポロ前公園にある「かもめの水兵さん」碑〕

女流詩人 武内俊子

武内俊子さんは、明治三十八年九月十日、当三原市浄念寺で、父渡辺俊哲の長女として生まれ、県立高等女学校を卒業され、大正十四年秋、広島市出身の武内邦次郎氏と結婚されてから、東京都世田谷区三軒茶屋に移られました。

よき母である傍ら、昭和四、五年頃から文筆生活入られ「かもめの水兵さん」「リンゴのひとりごと」「船頭さん」「赤い帽子白い帽子」等の童謡を、作詞された外、数多くの童謡を書き残されております。

昭和二十年四月七日、四十一才の若さで三軒茶屋の自宅で病歿されました。

菩提寺は、広島市江波町の慈仙寺にあります。

昭和五十三年十月
柳井堯夫



浄念寺山門裏にある石柱

〔左の石碑裏面に刻まれた解説文字〕

1. 日本の歌百選

「かもめの水兵さん」は、ハワイに旅する叔父足利瑞義を横浜港に見送りに行った際、数十羽のかもめに魅了されて作詞したものです。この歌を歌った河村順子さんにより、英語やヒンズー語など11ヶ国語に訳されたことから、世界各国で歌われています。平成19(2007)年、日本の歌百選に選出されました。

2. 日本各地に歌碑

「かもめの水兵さん」の楽譜と歌詞が刻まれた碑は、三原市のほか、この歌の作曲家河村光陽（順子さんの父親）の生地福岡県田川市福智町や、横浜市の山下公園にもあります。

3. 渡辺哲信

僧侶で世界的探検家渡辺哲信は、叔父さんにあたります。



〔ポポロ前公園の通路脇にある「リンゴのひとりごと」碑と像〕

おもしろクイズ

「船頭さん」や「かもめの水兵さん」を作詞するに当たって、武内俊子さんの三原での幼児体験が活かされているとも言われています。三原のどの川でしょう？

(ア)和久原川 (イ)西野川 (ウ)沼田川



三原のお祭り



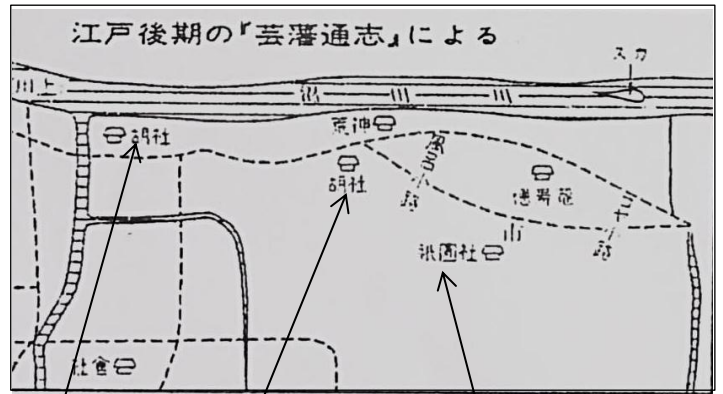
3/8

沼田神社 祇園大祭

「沼田の祇園さん」の名で親しまれている沼田神社は、豊かな田園地帯の広がる沼田東町本市にあり、毎年7月に「祇園大祭」が地域の人たちによって賑やかに行われます。第一日曜日に渡御祭事として神幸祭が、第二日曜日に還御祭事として還幸祭があり、今年は7月6日が神幸祭、13日が還幸祭です。



〔 沼田神社 〕



上胡社 市胡社 祇園社(沼田神社)

現在この辺りは沼田川の河口から5キロ程遡りますが、かつては満潮時には海となる河口でした。いつしか川の運んできた土壌が堆積し、中洲となり自然堤防が形造られ、その微高地に人が住むようになりました。交通の大動脈である瀬戸内海と、内陸部を結ぶ川が接するこの地は、交通の要衝として人や物の行き来が盛んで、ここに沼田市が形成されました。川の南側（沼田東側）を本市、北側（長谷荻路側）を新市と言い、中世の一大商業集落となります。室町時代中期には、本市には在家300軒、新市には150軒あり、地主や富裕商人の立派な屋敷や土蔵（銀行）が立ち並んでいました。小早川氏によって干拓や堤防普請工事など整備が進み、中世小早川武士団の中心集落として繁栄しました。裕福な商人も多く、干拓事業や仏通寺造営の費用を負担しました。また、市場経済活動のほか、小早川氏が海上へ勢力を伸ばす拠点としても機能し、朝鮮や南方との交易も行われ、その船着場もありました。こうして戦国末期に隆景公が三原へ築城するまで、沼田市は続きました。

当時その繁栄を誇った沼田市の本市の中心にあったのが「沼田の祇園さん」です。この祇園社(沼田神社は、当時はこう呼ばれていました)の縁起に、次のような記述があります。（現代語にて要約）

祇園信仰とは、病気が流行ったり災厄に遭うのは、不幸な死を遂げた者や、荒ぶる神の霊を祀るのを疎かにしたため、その祟りであると考え、その霊を慰めて災厄を避けようとする信仰です。

こうして祇園社は、武塔神（素戔鳴尊）の教えにより厄

ここ沼田里に疫病が流行り、人々が苦しんでいた。真人という村人の家に、あるよそ者が一夜の宿を乞うた。しかし「生憎今は悪疫が流行っているので宿ができない」と断ったところ、そのよそ者は、「我に宿を貸すならばその悪疫を鎮め、我を祀れば今後も疫病を除き、この地に繁栄をもたらすだろう。我は武塔神（スサノオノミコトのこと）である」と言ったので驚いた。お泊めしたものの粟麦飯しかなかったが喜んで食べられ、帰り際に、「潮水を堰止め沼田川から水を引けば、実り豊かな田ができるだろう」と仰せられた。するとたちまち疫病も治まり、仰せの通りに田を拓くと豊作になったので、沼田里の人はスサノオノミコトの神徳を敬い奉るため、宮居を構えた。

病除けの社として、遠近から詣でる人多く、領主からの寄進も受け、広域の人々から崇敬され護持されてきました。忠海、二窓、能地、瀬戸田などの漁師からの信仰も厚く、漁業神としての性格もありました。現在、沼田神社では、毎年3月に湯立祭^{ゆたて さい}、7月に祇園祭が奉納されています。沼田の郷の守護神として、地域の人々から大切に守られています。

現在行われている祇園祭において、先ず特筆すべき特徴として、鳳輦（ほうれん）さんという中が畳敷になっている神輿と、御山さんといわれる山車があります。この山車は馬上の武者とその旗持ちの2体の人形を飾ったもので、これは小早川氏が沼田荘地頭職で京都在住中、京都の祇園祭を見てそれを参考に独自の山車を作らせた、という言い伝えがあり



〔 還幸祭 … H25.7.14 小雨 〕



〔 鳳輦（ほうれん）さん 〕

ま本市橋のたもとの上胡社と市胡社まで行き、祈禱をします。御山さんはそれが終わるのを待って再び合流して沼田神社まで一緒に戻ります。

鳳輦行列で、神輿を担いだり、山車を引いたりするのは大変な労力がいらいます。鉾を担いだりお供物等を持つ者、掃き清める者や、山車の上の太鼓と篠笛の祇園囃子を奏でる者などが御供をし、宰領の指揮のもと、安全に配慮しながら本市や七宝の人々総出で祭りを作り上げていきます。

ます。どちらも、ここだけにしか見られないユニークなものです。

ご神体の乗った鳳輦神輿が鉾行列とともに沼田神社から出て、御旅所である七宝厳島神社に向けて渡御され安置されます。一週間後の本祇園祭で、鳳輦さんは厳島神社から沼田神社に向けて出発します。

このとき沼田神社から御山さんが途中まで迎えに出て合流お伴しますが、現在は道路通行事情により通り抜け不可となり、鳳輦さんだけがそのま



〔 御山さんと呼ばれる 山車 〕

こうして毎年、長い歴史と伝統のある沼田神社の祇園祭は地域の人々の協力によってとり行われ、脈々と受け継がれてきました。住民の高齢化や若い世代の伝統行事への無関心がすすむ中、毎年肅々と祭りを実施することは簡単なことではありません。今、穏やかに広がる沼田東の田園地帯、かつて沼田市と呼ばれて繁栄を極めた栄華を思い起こすとき、唯一それとつながっているのは、「沼田の祇園さんの祇園祭」なのかもしれません。

前号では三原城が築城されて最初に成立した東町を取り上げました。今回はその続編として東町に続いて町割りが行われた西町周辺を探ってみます。西町は三原城西側に位置し、小早川時代は山麓に立地した諸寺院を中心に民家が点在していた程度でしたが、慶長5(1600)年に安芸・備後に入府した福島正則によって西町の町割りが行われました。町割りをを行ったのは、正則が播磨の国から呼び寄せ町年寄りとなった川口宗助といわれています。

通 標



[西之宮 一里塚跡]



[三原城 西惣門跡]



三原八幡宮(西八幡宮とも西宮八幡宮とも呼ばれています)の前の道路の反対側に立っています。

ここは広島からは16里、尾道からは3里にあたり、糸碓神社東の一里塚から一里の距離は、三原八幡宮下より東の位置になりましたが、そこは三原城中にあたり、城中に一里塚を設けることは出来ないで、6丁ばかり西に寄ったこの場所にあったそうです。

西惣門跡の石柱は西之宮下から十数メートル東寄りに立っており、三原城の最西にあたります。

三原八幡宮は、応神天皇、神功皇后を祭神とし、西町・西野村一帯の総氏神として永正7(1510)年に宇佐八幡宮勧請により建立されたと伝えられ、天正3(1575)年に小早川隆景によってこの地に移されたそうです。西野村から東は涌原川当たりまでが往古の敷地で、三原城堅牢地神(けんろうじしん)の祓いの役を務めていたようです。

記念碑



[倉橋誠太重親彰徳碑]

[吉永俊二重文顕彰碑]



三原八幡宮境内に2基の顕彰碑(彰徳碑)が建っています。二人とも佐分利流槍術に秀でていました。佐分利流槍術は、佐分利猪之助重隆を開祖とします。関ヶ原の合戦には東軍(徳川方)に属し、槍を以って大いに西軍(石田方)を悩ましたそうです。その後池田輝政に仕え、子弟の育成に努め多くの門人を輩出したそうです。

中でも三代目佐分利平蔵重種の子重勝は、三原城主浅野家より召し出され槍術指南役となりました。代々三原藩において隆盛を究めましたが、八代目源五左衛門重武のとき明治維新となりました。

維新後、九代佐分利(倉橋)誠太^{しげあき}重親、十代佐分利(吉永)俊二重文、十一代佐分利(川瀬)元一、十二代佐分利(川瀬)一道へと引き継がれ、多くの子弟の育成と古武道の振興に努めたそうです。

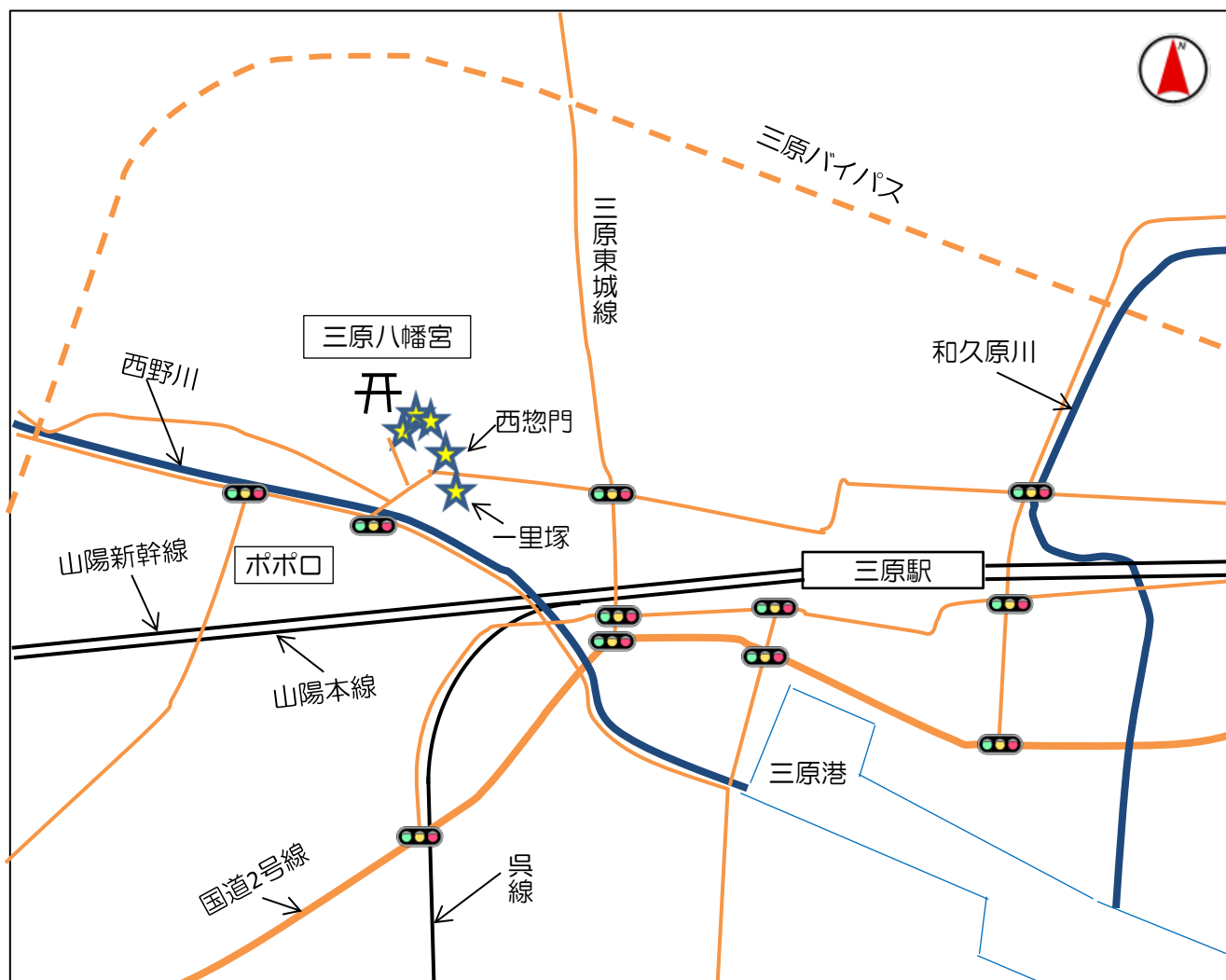
その功績をたたえ、倉橋誠太については有志により大正15(1925)年2月にこの彰徳碑が建立されています。吉永俊二については吉永龍次郎、川瀬元一などが発起人となり、昭和41(1966)年4月17日建立され、隣同士に並んでいます。



伝によれば、雄略天皇がこの地にお成りのとき、枝ぶりの美しさを愛でられ、その様が時雨のようであつたことから「しぐれ松」として親しまれた松が在ったそうです。これに因んだ芭蕉の句碑があります。

「旅人と我名よばれむ初しぐれ」
この句は、芭蕉の吉野・奈良方面への紀行文「笈の小文(おいのこぶみ)」に収録されています。

〔 概略マップ 〕





三原にある狛犬



8/8



今回は、新倉・長谷の狛犬を紹介します。

かさがみ

13. 瘡神社 (通称 かさがみさん) 三原市新倉一丁目

かさがみさんは、昔から病氣快癒・家内安全などに特に靈驗あらたかな神社です。最近では、進学祈願などもあって多くの参拝者で賑わっています。



	単位：cm		
	高さ	幅	奥行
阿形	85	64	40
吽形	85	65	43
年代	昭和44(1969)年		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



おおすが

14. 大須賀神社 (通称 牛神さん) 三原市新倉一丁目

この社は、古くから農業に協力してきた牛馬の無事を願掛する神社で、毎年8月16日の祭礼の日には「チンコンカン踊り」が奉納されます。(昭和34(1959)年10月30日県の無形文化財に指定されました。)



	単位：cm		
	高さ	幅	奥行
阿形	94	30	61
吽形	94	30	60
年代	昭和4(1929)年12月		
石工	吉本助市(尾道市新地)		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



15. 八重垣神社 (通称 祇園社) 三原市長谷荻路

本社は古くは玉石にて祀りました。小坂・荻路・沼田下の三ヶ村の人達が深く信仰し、参拝者が常に絶えませんでした。承応2(1653)年の創祀で須佐之男命を祭神とします。(説明文「広島県神社誌」参照)



	単位：cm		
	高さ	幅	奥行
阿形	95	35	65
吽形	95	35	65
年代	不明		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		

